

平成 27 年度（第 4 期）

事業報告書

（自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. 電子書籍制作事業（助成受贈者の記録）
4. その他の事業

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団

## 1. 事業概要

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団は、平成 27 年 4 月 1 日に公益財団法人として 4 年目を迎え、本財団の公益目的事業である日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成。そのほか日本と韓国に関わる国際交流に対する助成を行なうことになっています。

平成 27 年 3 月 13 日（金）に開かれた理事会でご承認いただきました第 4 期事業計画に基づいて、第 4 期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の助成事業を実施しました。

## 2. 助成事業

### (1) 平成 27 年度の応募状況と選考委員会

今年度も郵送による「郵便申請」の受付のほかに、本財団ホームページから直接申請できる「電子申請」を併用しました。

平成 27 年 7 月 1 日から助成申請書の募集を始め、9 月 30 日に締め切った結果、過去最多 147 件の助成申請を記録しました。

選考委員会から承諾を得て、事務局内の事前審査で 70 件を落とし、落とした 70 件については金時文委員、野村進委員、辰巳琢郎委員の 3 名が再度チェックして、この中から 3 件を復活させました。その結果、選考委員会本番の審査対象になったのは 80 件の申請書でした。

この後、7 名の選考委員が 80 件の申請書を約 1 カ月かけて精査し、11 月 16 日（月）開催の選考委員会に臨みました。当日、選考委員会は 13 時に開会し、20 時過ぎまで議論を続けましたが、決着がついたのは約半数の 5 件だけで、面談が必要であると判断した個人 2 件（1 名、面接を辞退）、団体 2 件の代表を 11 月 27 日（金）に本財団に呼び、伊藤亜人選考委員長、鄭大均元選考委員長、川村湊委員の 3 名が 13 時から 17 時過ぎまで

面接を実施しました。

面接の結果、5個人、3団体、計8件の助成対象候補が選考されました。その後、12月17日（木）に開催された第3回理事会、第3回臨時評議員の席上で、伊藤亜人選考委員長から平成27年度助成対象者に関する講評があり、理事会、評議員会の承認を得て、助成対象者5個人、3団体が正式決定となりました。

なお今年度は、選考委員会からも理事長からも、韓昌祐特別助成（上限500万円）の推薦は上がりませんでした。

## 平成27年度 選考委員会

伊藤亜人氏	東京大学名誉教授・早稲田大学アジア研究機構研究員
鄭 大均氏	首都大学東京都市教養学部特任教授・作家
川村 湊氏	法政大学国際文化学部教授・文芸評論家
野村 進氏	拓殖大学国際学部教授・ノンフィクション作家
金 時文氏	東洋経済日報社編集局長
モンテ・カセム氏	(学) 立命館総長特別補佐・立命館大学政策科学部教授 立命館大学国際平和ミュージアム館長
辰巳琢郎氏	近畿大学文芸学部客員教授・俳優

## 平成 27 年度 選考委員会の結果報告

～ 助成対象候補一覧 ～

受理番号	名前	研究活動テーマ・所属	助成金額
038	金 貴粉 (キンキブツ)	「在日朝鮮人ハンセン病患者・回復者の歴史とその実像」 国立ハンセン病資料館学芸員	2,000,000 円
055	鈴木 久美 (スズキ クミ)	「敗戦直後の在日朝鮮人の『帰国』に関する研究」 駒澤大学総合教育研究部非常勤講師	800,000 円
057	池内 敏 (イケuchi 敏)	「江戸時代の朝鮮使節・異聞」 名古屋大学大学院文学研究科教授	1,500,000 円
093	朴 美貞 (ハク ミヅエ)	「写真の発見と朝鮮表象—『肖像』から『ポートレートへ』」 国際日本文化研究センター研究員	1,700,000 円
108	熊谷 聡 (クマガイ サトシ)	「韓国カワウソ研究センター及びソウル大学とのカワウソ 合同研究」 文筆業・元桜美林大学非常勤講師	1,400,000 円
111	米田 利己 (ヨネタ トシ)	「国境の島対馬で開催する、日韓の芸術家の国際交流事業」 対馬アートファンタジア実行委員会 実行委員長	2,000,000 円
142	尾崎 孝宏 (オノキ タカヒロ)	「日韓の大学生による国際交流モデルの構築」 鹿児島大学法文学部人文学科比較地域環境コース代表 鹿児島大学法文教育学域法文学系教授	3,600,000 円
147	吉川 成美 (ヨシガワ ナルミ)	「『プマシ (相互扶助)』の哲学を発信し、日韓の有機農業 ネットワークを構築する」 たかはた共生プロジェクト代表 早稲田環境学研究所研究員・講師	2,000,000 円
		個人 5 件・団体 3 件	総額 15,000,000 円

## (2) 公募の方法について

平成 27 年度の公募広告は、6 月 29 日から（株）朝日新聞出版の「ニュースサイト dot」のトレンド+コーナーに、本財団の『日韓国交正常化 50 周年記念』企画をアップして、公募の広報活動を展開しました。

新聞媒体は、在日コリアンメディアの統一日報、東洋経済日報の 2 紙で公募を告知し、国公立大学、私立大学、日韓に関わる研究機関、諸団体に公募ポスター 600 枚、財団パンフレット 1400 部を送付しました。

### <ネット>

	広告リクエスト	クリック数	クリック率
6 月 29 日～7 月 5 日	1,119,998	417	0. 04 %
7 月 13 日～7 月 19 日	987,652	831	0. 08 %
7 月 27 日～8 月 2 日	942,946	887	0. 09 %
8 月 3 日～8 月 9 日	471,688	368	0. 08 %
8 月 17 日～8 月 23 日	979,912	958	0. 10%

### <新聞>

7 月 1 日付	統一日報	公募広告（一面）
9 月 4 日付	東洋経済日報	公募広告（一面）

### <パンフレット、ポスター>

7 月 24 日	国立大学 86 校
7 月 28 日	公立大学 86 校
7 月 28 日	東京・私立大学 93 校
7 月 30 日	在日世界韓人商工人連合会 65 人
7 月 30 日	関東圏・私立大学 50 校
7 月 30 日	中部・関西・九州圏・私立大学 50 校
7 月 31 日	民団地方本部、韓国商工会議所 75 か所
8 月 6 日	日韓親善協会地方協会 40 か所
8 月 20 日	『日韓地方紙フォーラム』関係 24 か所
8 月 27 日	日韓関係の NPO 法人、一般人 101 部
8 月 28 日	日韓関係の研究所、研究者、マスコミ人 136 部
計	705 か所
	送付数 パンフレット 1400 部・ポスター 600 枚

\*平成27年度 助成申請者の内訳（失格1件含む148件）

1.数(単位:人)

個人	88
団体	60
総数	148

3.年齢構成(単位:人)

10代	0
20代	1
30代	39
40代	48
50代	35
60代	16
70代	7
80代	2
計	148

2.男女比(単位:人)

	男	女	計
個人	65	44	109
団体	28	11	39
計	93	55	148

4.申請者の住所 都道府県別(単位:人)

北海道	1	東京都	47	滋賀県	0	香川県	0
青森県	1	神奈川県	8	京都府	13	愛媛県	4
岩手県	0	山梨県	1	大阪府	11	高知県	1
宮城県	3	長野県	0	兵庫県	2	福岡県	5
秋田県	0	新潟県	1	奈良県	1	佐賀県	0
山形県	0	富山県	1	和歌山県	0	長崎県	1
福島県	1	石川県	0	鳥取県	3	熊本県	0
茨城県	3	福井県	0	島根県	0	大分県	2
栃木県	2	岐阜県	0	岡山県	0	宮崎県	2
群馬県	1	静岡県	3	広島県	2	鹿児島県	0
埼玉県	8	愛知県	12	山口県	1	沖縄県	1
千葉県	2	三重県	0	徳島県	2		
						韓国	2
						合計	148

5.代表、個人の国籍

日本	在日コリアン・韓国 (留学生含む)	オーストラリア	中国
77	69	1	1

### 3. 財団誌制作事業（助成受贈者の記録）

#### （1）財団誌『青鶴』発刊の概要

旧財団法人の（財）韓哲文化財団の「寄付行為」に、助成事業のほかに  
論文集の刊行が事業として掲げてありました。論文集の刊行は、事業の柱の  
一つでもあり、財団法人として順守すべき行為でありました。

そこで「寄付行為」に準じた事業を遂行する目的と、過去の助成金受贈者  
の成長と助成金の使途に関する調査を目的に、平成 21 年度から財団誌『青  
鶴』を制作してきました。助成証書授与式から 3 年後の助成受贈者を取  
材、調査をして財団法人の活動の記録としてまとめてきました。

#### （2）平成 27 年度電子書籍『青鶴 7』の報告

平成 27 年度も、これまで制作してきた紙媒体の財団誌『青鶴』を電子書籍  
に切り換えコストダウンを図り、平成 24 年度の助成受贈者 5 個人、4 団体  
を調査、取材の対象としました。

7 月上旬に編集会議を開き、6 名のライター、2 名のカメラマン、デザイ  
ナー 1 名、編集者 1 名、校閲 1 名のほかに電子書籍化を担当するウェブ会社  
の（株）ページワンが加わり、電子書籍『青鶴 7』の制作事業を始めました。

編集会議から『青鶴 7』の取材・執筆、「青鶴学術論集」のための論文の  
所収、最終的な校閲、PDF によるホームページのアップに至るまで約 7 カ  
月を要しました。

平成 27 年度の電子書籍『青鶴 7』で検証した平成 24 年度の助成受贈者は、  
以下の通りです。

音楽家

学習院女子大学非常勤講師

K-文学振興委員会代表

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程修了

公益財団法人 香雪美術館学芸員

筑波大学体育・スポーツ研究会代表

『話してみよう韓国語』中高生 2014 実行委員会代表

全国肢体不自由児者父母の会連合会常務理事

郵便学者・成城大学非常勤講師

齋藤 徹

朴 敬玉

中沢けい

韓 希妊

郷司泰仁

大熊廣明

李 允希

上野 密

内藤陽介

## 4. その他の事業

### (1) 助成証書授与式

毎年、3月14日に都内ホテルで開催されてきた本財団の助成証書授与式は、助成受贈者のプレゼンテーションの場であり、また駐日大韓民国大使館・韓国文化院文化院長をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓民国民団中央本部団長、在日世界韓人商工人連合会会長、在日本韓国人連合会会長などが列席し、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓親善と交流を促す場になっています。

平成27年度の助成証書授与式は、平成28年3月14日（月）16時から韓国文化院「ハンマダンホール」にて開催されました。

### (2) 記念レセプション

本財団の助成証書授与式のあと、恒例となった記念レセプションが催されました。この記念レセプションには過去に助成を受けた（財）韓哲文化財団時代の助成OB、OG、諸団体も参加して、日韓のテーマで繋がった各年度の助成受贈者が分野の垣根を越えて交流しました。

平成27年度の記念レセプションは、平成27年3月14日（月）18時30分から韓国文化院「ホワイエ」にて開催され、終始和やかな雰囲気のもとで幕を閉じました。

## 平成 27 年度の事業報告附属明細書

1	給料手当	7,291,211 円
2	アルバイト給与	0 円
3	法定福利費	659,202 円
4	会議費	214,307 円
5	接待交際費	71,878 円
6	旅費交通費	680,664 円
7	通信運搬費	190,835 円
8	減価償却費	451,500 円
9	消耗品費	28,967 円
10	公募関係費	8,292,961 円
11	財団誌制作費	2,997,360 円
12	貸借料	324,000 円
13	諸謝金	1,659,427 円
14	図書費	37,797 円
15	助成金	15,000,000 円
16	雑費	2,870 円
17	研修費	0 円
18	手数料	253,656 円
	事業費総額	38,156,635 円

## 事業報告附属明細書の内訳

- 1 給料手当（専務理事と職員の報酬全体の3分の2）
- 2 アルバイト給与（助成証書授与式の関係者）
- 3 法定福利費（健康保険料、厚生年金保険料、子ども子育て拠出金）
- 4 会議費（選考委員会、財団誌編集会議等）
- 5 接待交際費（事務局、財団誌編集）
- 6 旅費交通費（助成証書授与式の招聘者、助成受贈者、選考委員、財団誌編集、事務局）
- 7 通信運搬費（事務局広報宣伝活動、財団誌編集）
- 8 減価償却費（事務局備品）
- 9 消耗品費（事務局、財団誌編集）
- 10 公募関係費
  - ・助成証書授与式（(有)ハンコーポレーション、(有)ソラ、式典招聘者、韓国文化院等）
  - ・広告費（(株)朝日新聞出版、(株)統一日報、(株)東洋経済日報、大石デザイン事務所）
- 11 財団誌制作費
  - ・原稿料（ライター、カメラマン、デザイナー、編集者、校閲士等）
  - ・印刷費（(株)ページワン、(株)センターメディア）
- 12 貸借料（(株)マルハン）
- 13 諸謝金（選考委員会、理事会、評議員会等）

14 図書費（事務局、財団誌編集等）

15 助成金（一般助成）

16 雑費（事務局）

17 研修費（事務局）

18 手数料（アイワーズ、事務局）